

品質・環境報告書

2023



中京化成工業株式会社

活動レポート(品質・環境) - 2023 -

中京化成工業(株)は、1999年11月26日にISO9001の認証取得に続き、2004年6月18日にISO14001の認証を取得しました。継続運用している中で2015年版改訂にも早期に対応し、2016年にISO9001を2017年にISO14001の移行を完了しております。2019年より品質と環境マネジメントシステムの統合を進め、2022年は当社の統合度合いはセカンドステージと評価していただきました。2023年は更なるステージへステップアップを目指し、品質・環境の両マネジメントシステムの確実な運用と効率化を推進しております。

品質・環境方針／品質・環境目標

品質・環境方針

当社は、品質・環境マネジメントシステムの最上位の「基本方針」に当社の取り組む決意と姿勢を表明すると同時に、より具体的に、かつISO9001、ISO14001規格に適合した「品質・環境方針」をまとめて制定しております。

「品質・環境方針」 2016年6月制定

品質基本方針

- ① 我社の製品は常に優秀である。
- ② 我社は製品の品質で勝負する。

環境基本方針

- ① 我社は自然と共生することに最大の関心を払う。
- ② 我社は環境配慮型製品の開発を進める。

品質・環境方針

1. 当社の各事業活動、製品及びサービスを踏まえた品質・環境マネジメントシステムを構築します。また、蓄積された潤滑理論をベースに自動車関連、グリース関連、工業用機械関連、金属加工関連、離型・剥離剤関連、洗浄剤関連などの分野で顧客と地域社会に貢献します。
2. 変化する諸条件及び情報を反映した品質・環境目標を事業年度毎に設定し、運用し、定期的に見直すことにより、品質・環境マネジメントシステムの有効性の継続的改善に努めます。
3. 環境法規、条例、規制や当社が合意したその他の要求事項を順守します。
4. 顧客満足の上昇、環境負荷の低減と汚染の予防及び環境保護に努めます。
5. 全従業員に教育訓練と啓蒙活動を実施すると共に、ビジネスパートナーに対しても理解を求め協力して運用します。

品質・環境マネジメントシステムの適用範囲

本品質・環境マネジメントシステムは「取り組みの計画策定シート」の記載内容を考慮し、その適用範囲は各種潤滑油、金属加工油、グリース、不凍液、離型剤などの製品の設計、開発、製造、引渡しにわたる品質・環境に関わる全ての業務・サービスとします。

品質・環境に関するサイトは本社・工場（中京化成工業株式会社 愛知県刈谷市今岡町西吹戸10番地1）のみとします。

この方針及び適用範囲は、文書化し広く一般に開示します。

2016. 6. 1

中京化成工業株式会社
代表取締役社長
廣野 拓

2023年度 品質・環境目標

「品質・環境方針」をベースに、当社の活動・製品・サービスから特定された「著しい環境側面」、法的及びその他の要求事項、当社を取り巻く内外の課題、更に利害関係者のニーズと期待より、「リスクおよび機会」を特定しております。さらにこれを考慮して各年度に「**全社目標**」、「**品質・環境目標**」を決めて対応し、その施策の実現に取り組んでおります。

全社目標（品質）

- ①顧客重視
- ②品質（Q、C、D）管理の向上
- ③供給者との互恵関係の強化
- ④予防処置

全社目標（環境）

- ①環境配慮型製品の開発と販売促進
- ②資源・エネルギー・廃棄物の削減
- ③法規制及び組織が同意するその他の要求事項の順守
- ④予防処置

部 門	品質・環境目標	
	内 容	目 標 値
営業部 潤滑油グループ	顧客の要望している環境配慮型製品の販売 (① エンジンオイル：省燃費エンジンオイル ② 鍛造油：油煙対策油・汚れ対策油・各種化学物質非含有量・再生油・ボンデフリープレス油・塩素フリープレス油)	年間売上 19,500万円
営業部 化成品グループ	顧客の要望している環境配慮型製品の開発・拡販 (水溶性離型剤（ラッシュコート）・水溶性エアゾール)	年間売上 5,280万円
業務購買部	エアゾール品の運用管理（製品仕様）	クレーム0件
	出荷完了時間 17：00	100%
製造部	不良品流出【製造部起因】	0件
技術研究所	潤滑油グループ 環境配慮型 新製品の売上向上	4,800万円
	化成品グループ 環境配慮型 新製品の売上向上	4,770万円
	合計 環境配慮型 新製品の売上向上	9,570万円
品質保証部	調整件数の削減【製造部起因以外】	20件
	電気使用量の削減	2022年度以下
総務部	マニュアル化によるワークシェア	5件

2022年度 品質・環境目標&実績

各関係部門において「品質・環境目標」を設定し、その達成に向けて取り組みました。仔細は次頁の通り。

	部 門	環境目的	目 標	実 績	評 価	
1. 増 業績の向上	営業部 潤滑油グループ	顧客の要望している環境配慮型製品の販売	年間 19,500 万円	17,534 万円	m()m	
	営業部 化成品グループ	顧客の要望している環境配慮型製品の販売	年間 5,280 万円	5,203 万円	()	
	技 術 研 究 所	潤滑油グループ	環境配慮型 新製品の売上向上	年間 4,800 万円	5,382 万円	\(o\)/
		化成品グループ	環境配慮型 新製品の売上向上	年間 4,770 万円	5,066 万円	()
		合計	環境配慮型 新製品の売上向上	年間 9,570 万円	10,448 万円	()
	総務部	マニュアル化によるワークシェア	5 件	5 件	()	
2. 減 不具合の削減	業務購買部	エアゾール品の運用管理(製品仕様)	0 件	1 件	m()m	
		出荷完了時間 17:00	100%	658/705	()	
	製造部	不良品流出【製造部起因】	0 件	2 件	m()m	
	品質保証部	調整件数削減【製造部起因以外】	年間 20 件以下	26 件 (20 件 指定配合品を除く)	()	
	品質保証部	電気使用量の削減	2021 年度実績以下 (37.2kW/LOT)	37.1kW/LOT	()	

評価の凡例

\(o\)/ : 目標値を10%以上達成しました!

() : ほぼ目標値

m()m : 目標値の90%以下に終わりました

各部のコメント

テーマ	部門	達成率 (目標対比)	コメント
顧客の要望している環境配慮型製品の販売	営業部 潤滑油グループ	89.9%	上半期はエンジンオイル関係、鍛造油関係がともに不調で、一度も単月目標を達成することができませんでした。下半期は自動車業界の挽回生産が後押しとなり猛追しましたが及ばず、未達となりました。今年度は全く届かない目標設定ではありませんでしたので、次年度も同額で目標達成に向けて活動して参ります。
顧客の要望している環境配慮型製品の販売	営業部 化成品グループ	98.5%	今年度はフッ素系原料廃止に伴う切り替え活動に多くの時間が割かれたことや、新規の獲得も小口が目立った事により未達となりました。別の不フッ素系原料の廃止もありますが、新規開発に注力して増派してまいります。
環境配慮型 新製品の売上向上	技術研究所 潤滑油グループ	112.1%	今年度は新製品の売上向上を目指す取り組みを行いました。環境調査依頼が非常に多くありこれらに迅速に対応することも目標達成に貢献できたものと考えます。次年度はより多くの製品を登録することで会社全体の売上向上に貢献できるよう努めます。
環境配慮型 新製品の売上向上	技術研究所 化成品グループ	106.2%	今年度は初めて新製品（過去3年間の新規開発品）に焦点を当てた目標に致しました。カタログの作成や展示会出展、お客様への商品紹介において新製品を積極的に紹介し売上向上に務め目標達成する事が出来ました。途中商品の失注もありましたがその他の登録商品はほぼ前年対比100%を超える結果となりました。
顧客重視 (手順書の作成及びブラッシュアップ) ワークシェアを進めて多能工化を目指す	総務部	100%	本年度は、5つのマニュアルを作成致しました。過去4年間で50種類以上のマニュアルが作成されているが効果の確認がなされていないため次年度の課題と致します。次年度はジョブローテーションを行い、マニュアルの有効性確認を行います。

各部のコメント

テーマ	部門	達成率（目標対比）	コメント
外注先要因によるクレーム防止	業務購買部	1件	出荷準備時間の前倒しを含めて5年間取り組んできました。総決算となる本年度は90%を超える結果となりました。未達成要因に社内原因はなく社内に対策できることはなくなったと考えて、この取り組みは終了したいと考えております。2024年問題を受けての対策など年々問題は増えていくと考えますが、次年度からは運用として継続して活動して参ります。
出荷完了時間 17:00	業務購買部	93.3%	前半はクレーム0件でしたが、12月に1件発生したことで目標を達成することができませんでした。新規製品や仕様変更時には打ち合わせを実施することで、対策できた部分はあったかと思いますが、外注先要因という内容のため、既存製品での対策の難しさを実感しました。次年度以降は今までに取り組んだ対策を継続するとともに運用として進めます。
不良品流出【製造部起因】	製造部	2件	前年比1件増加の2件となりました。同目標に取り組み5年が過ぎましたが、今年度は過去の事例を繰り返すことはなかったものの、依然として多くの不良発生リスクが潜在していることを再認識させられました。過去に発生した事例を参考にしながらも、潜在しているリスクを洗い出し、不良品を発生させない仕組みづくりを重点に取り組んで参ります。
調整件数の削減【製造部起因以外】	品質保証部	76.9% (100.0%)	年度目標は達成できませんでしたが、指定配合品を除くと20件となり、目標と同じ件数となりました。前半は高粘度ギヤオイルの攪拌不足が目立ち、後半は加熱指示のない製品での溶け残りが多くを占めました。2023年度の取り組みに加え、工程監査を実施することで調整発生を防いでいきます。2024年度は指定配合品を除き年間15件以下を目標に取り組みます。
電気使用量の削減	品質保証部	100.2%	残念ながら今年度は目標を達成することができませんでした。電気使用量は削減できたものの生産量が減少してしまったのが大きな要因となりました。2024年度はさらに省電力化を進め、電気使用量の削減に努めてまいります。

中京化成工業株式会社 品質・環境への各種取り組み



緊急事態への対応 非常呼集訓練、消火訓練、煙体験(防災教育)



火災報知器の更新



業務購買部フロア



総務部フロア



グリース工場休憩室

感知器の更新

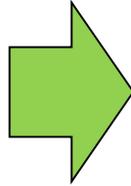


ベル、スピーカの設置



ドラムの管理方法

横向き[ドラムラック使用]から縦置きに改善 (第1、第2屋外貯蔵所)



ごみゼロ運動





中京化成工業株式会社

CKK CHUKYO KASEI KOGYO CO., LTD.

ISO9001:2015 (JQA-QM3984)

ISO14001:2015 (JQA-EM4081)

〒448-0008

愛知県刈谷市今岡町西吹戸 10-1

TEL: (0566) 36-3690 (代表)

FAX: (0566) 36-6156

URL: <http://www.c-k-k.co.jp>

10-1, Nishifukido, Imaoka-cho

Kariya-City, Aichi-Pref., JAPAN

TEL: 0566-36-3690 (General Line)

FAX: 0566-36-6156